

伝統を誇る、古都奈良のシンボリックホテル

株式会社奈良ホテル 奈良県奈良市

奈良ホテルは、明治42年、関西の迎賓館として華やかに開業した。古都奈良のシンボルともなっており、創業以来、多数の皇族や諸外国の要人、文人墨客が訪れている。

瓦屋根の本館は、格調高い桃山御殿風の総檜造りで、明治建築界の大御所「辰野金吾」の手による。ドイツ様式の和風ホテルとなっており、新館の各客室にも、同ホテル名物のマントルピースが配されている。

奈良ホテルは、その伝統を守りながら、2年後の創業100周年に向け、全館客室をリニューアルした。いかなる時代においても、ホテルとして最高のサービスと老舗旅館を思わせる笑顔でもてなして、お客さまから高い支持を得ている。

会社概要



会社名：株式会社奈良ホテル
 所在地：奈良県奈良市高畑町 1096
 電話：0742-26-3300
 FAX：0742-27-9955
 創業：明治42年（1909年）10月
 設立：昭和58年1月
 代表者：代表取締役社長 矢吹 静
 資本金：4億円
 従業員：147名
 事業：ホテル業（客室、宴会場、レストラン等の経営）

URL：<http://www.narahotel.co.jp/>



株式会社奈良ホテル 本館・玄関

伝統を誇る、古都奈良のシンボリックホテル

奈良ホテルは、明治42年10月、関西の迎賓館として華やかに開業した。日本を代表するクラシックホテルの一つであり、歴史の風雪に耐え、古都奈良のシンボルともなっている。

奈良公園の高台に位置し、若草山や興福寺五重塔、名勝旧大乘院庭園などが四季折々の彩りとともに一望できる。その眺めは格別の趣である。

創業以来、多数の皇族や諸外国の要人、文人墨客が訪れており、アインシュタイン、オードリー・ヘプバーンなども滞在した歴史を持つ。志賀直哉や堀辰雄の小説、紀行文にも登場している。

瓦屋根の2階建て本館は、格調高い桃山御殿風の総檜造りで、東京駅や日本銀行本店を設計した、明治建築界の大御所「辰野金吾」の手による。内装は和・洋が巧みに調和し、白木のままでの高欄、格天井、欄間などに宮殿の香りを漂わせている。客室に備えられた明治期の調度品は、今も使うことができ、往時を偲ばせる。

「吉野建て」を採り入れたユニークな鉄筋5階建ての新館は、木がふんだんに使われ、同ホテル名物のマントルピースが各客室に配されている。

奈良ホテルの特徴について、矢吹社長は「①築98年の歴史を誇る本館などのハード面、②スタッフの個性を重視した笑顔でもてなし、③リピーターの多さ（お客さまからの支持の高さ）、の三点をあげることができます」と語っている。

また、「4番目の特徴として、2年後の100周年に向け、明治・大正・昭和の時代をタイムスリップできるテーマパークにしようと考えています」と語る。実際、フロントから近代的なモノ（パソコン・プリンター等）が極力見えないように配慮したり、鞆などを運ぶ台車をスチール製から木製に切り替えたりするなどの対応をしている。

創業以来の伝統を守り続けるフランス料理等

メインダイニングルーム「三笠」では、桃山御殿風の重厚華麗な雰囲気なかで、創業以来の伝統を守り続けるフランス料理を心ゆくまで満喫できる。壁面にさりげなく飾られた横山大観と川合玉堂の作品や伝統的な調度品が、真心のこもった料理を一段と美味しいものにしてくれる。



ディナーコース「斑鳩」

メインダイニングルーム「三笠」

四季折々の素材をふんだんに用いた日本料理レストラン「花菊」では、日本酒のほか、ソムリエ厳選のワイン（約300種類）も堪能できる。

この他、世界の銘酒やカクテルを豊富に取り揃えた「ザ・バー」、天井まで届く大窓から奈良公園の四季折々の表情を楽しみながら、オリジナルケーキやコーヒーを味わえる「ティーラウンジ」がある。また、奈良県新公会堂の中にも、奈良ホテルが経営するレストラン能（Noh）がある。

多様な祝宴・会合等に対応した充実施設

宴会場は最大350名収容の「大和の間」をはじめ、舟底天井のたすき文様が新鮮な「金剛の間」など、大小あわせて個性豊かな6室（収容人員800名）を擁しており、祝宴、各種宴会やコンベンション、セミナーなど様々な集いに利用できる。



宴会場<大和>（新館）

聖ラファエル教会

一方、ブライダル用として、和建築と西洋アンティークが融合した、瀟洒なたたずまいの独立型チャペル「聖ラファエル教会」（キリスト教式）と春日大社のご祭神を祀った「蓬莱の間」（神前式）の、和・洋2つの伝統ある式場を備えている。

聖ラファエル教会は、景観に配慮した木造2階建てで、緑青銅板葺きの屋根になっている。聖堂内は、アンティークステンドグラスの優しい光と吉野杉の香りにつつまれた優美で荘厳な空間が広がっている。備品類も直接英国から調達するなど、全ての面で本物志向にこだわった教会のなかで、パイプオルガン（1865年製造）が奏でる清廉な音色が、二人の人生の新たな第一歩に彩りを添えてくれる。これまでに、この教会で永遠の愛を約束したカップルは、1200組を超えている。

創業100周年に向け、全館客室をリニューアル

奈良ホテルでは、木造本館や昔ながらの調度品は、修繕をしながら大切に利用している。その一方で、昨年度の本館（築98年）全64室に続き、新館（築23年）全65室の改装作業を完了し、平成19年10月1日にリニューアル・オープンした。

本館のクラシックで重厚なイメージに対し、新館客室は、明るさ・暖かさの中に新しさを表現しつつ、メリハリのあるデザインとなっている。カーペット、壁クロス、寝具等を刷新したほか、大型液晶テレビや高速インターネット回線を完備するなど、より快適に過ごせるよう、設備の充実が図られた。



新館客室スタンダードツインルーム

奈良ホテルは、2年後の平成21年10月に100歳の誕生日を迎える。今後も、奈良を代表するホテルとして、その伝統と優雅なたたずまいを守りながら、上質のもてなしで老舗旅館のように温かく人々を迎えてくれるであろう。

（島田、山城）